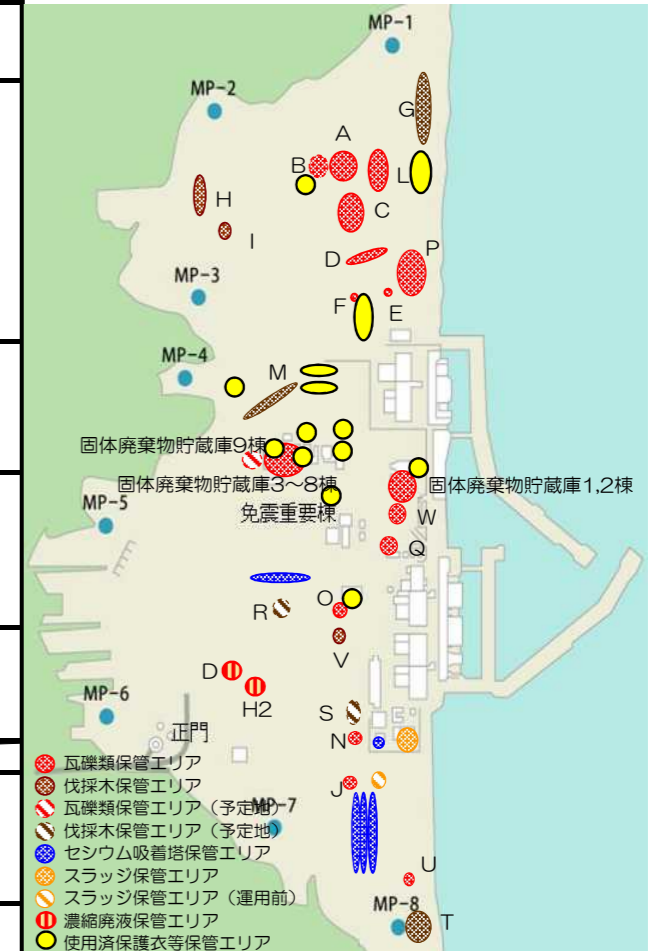


瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2016.6.30 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量*1	前回報告比*2 (2016.5.31)	変動理由*3	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01	300 m ³	+300 m ³	①	9%	126700 / 181200 (70%)	<ul style="list-style-type: none"> 2016年6月使用済保護衣等の一時保管エリアの一部を、瓦礫類の一時保管エリアB(保管容量3300m³)として運用開始。 エリアCの破碎コンクリートの再利用実施。 フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日~) 2016年6月末時点で230基(コンテナ)保管。 エリアPの瓦礫類について、リスク低減の観点から容器収納へ移行中。
		C	屋外集積	0.01未満	56,400 m ³	-400 m ³	②③④⑤	89%		
		F	屋外集積	0.01未満	5,900 m ³	微増	—	79%		
		J	屋外集積	0.02	4,300 m ³	0 m ³	—	89%		
		N	屋外集積	0.01	4,500 m ³	+300 m ³	③	45%		
		O	屋外集積	0.01	26,200 m ³	0 m ³	—	95%		
		P	屋外集積	0.01	28,400 m ³	+700 m ³	⑥	44%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	100%			
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	35700 / 57300 (62%)	
		E	シート養生	0.02	6,500 m ³	-1,100 m ³	⑦	41%		
P		シート養生	0.01	5,600 m ³	+700 m ³	⑧	63%			
W		シート養生	0.02	21,000 m ³	0 m ³	—	72%			
覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	20400 / 27700 (74%)	<ul style="list-style-type: none"> 覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫類収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了 	
	A	仮設保管設備	0.32	1,800 m ³	微増	—	26%			
	E	容器*4	0.02	300 m ³	微増	—	19%			
	F	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%			
Q	容器	0.1	5,700 m ³	0 m ³	—	93%				
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器*4	0.02	7,000 m ³	+100 m ³	④⑨	58%	7000 / 12000 (58%)	<ul style="list-style-type: none"> 主な瓦礫類は、1~3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。 	
合計(カレキ)				190,000 m ³	+800 m ³	—	68%			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700 m ³	0 m ³	—	74%	67800 / 81500 (83%)	<ul style="list-style-type: none"> 工事により発生した幹・根を随時受入中。
		I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
		M	屋外集積	0.01未満	39,300 m ³	0 m ³	—	87%		
		V	屋外集積	0.03	3,300 m ³	+2,600 m ³	⑩	55%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	8,500 m ³	0 m ³	—	65%	19600 / 24900 (79%)	
T		伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%			
合計(伐採木)				87,400 m ³	+2,500 m ³	—	82%			
保護衣	屋外集積	容器	0.02	65,500 m ³	-1,000 m ³	⑪⑫	92%	65500 / 71200 (92%)	<ul style="list-style-type: none"> 2016年6月エリアB運用開始に伴い、保管容量減(-3300m³) 雑固体焼却設備の運用開始(2016年3月18日) 使用済保護衣等焼却量 693t(2016年6月末累積) 焼却灰のドラム缶数 80本(2016年6月末累積) 	
合計(使用済保護衣等)				65,500 m ³	-1,000 m ³	—	92%			

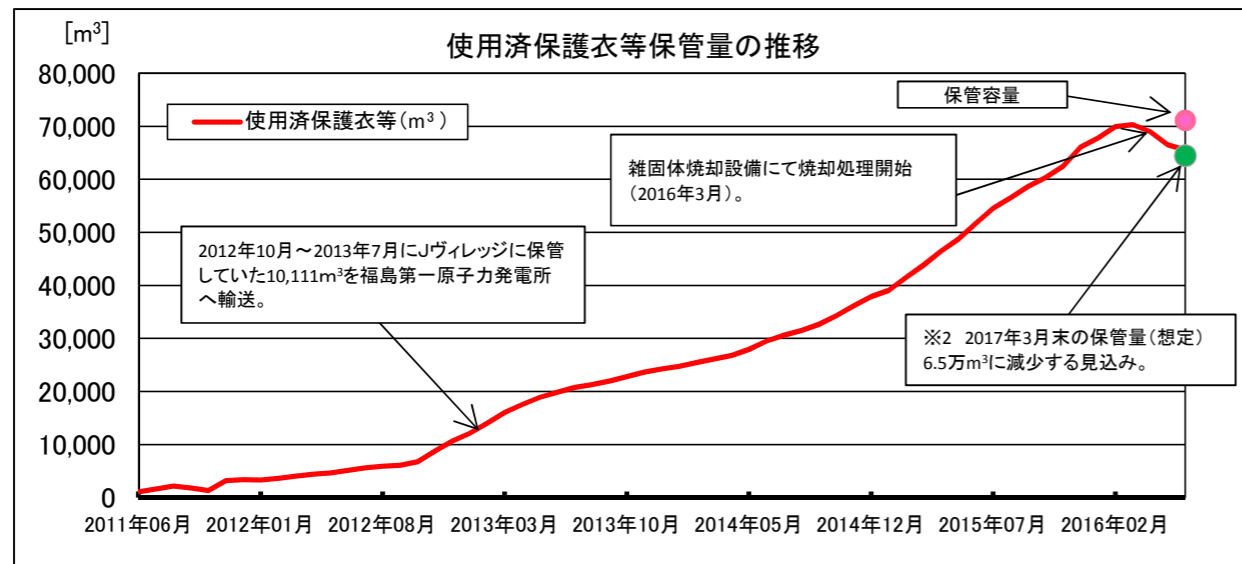
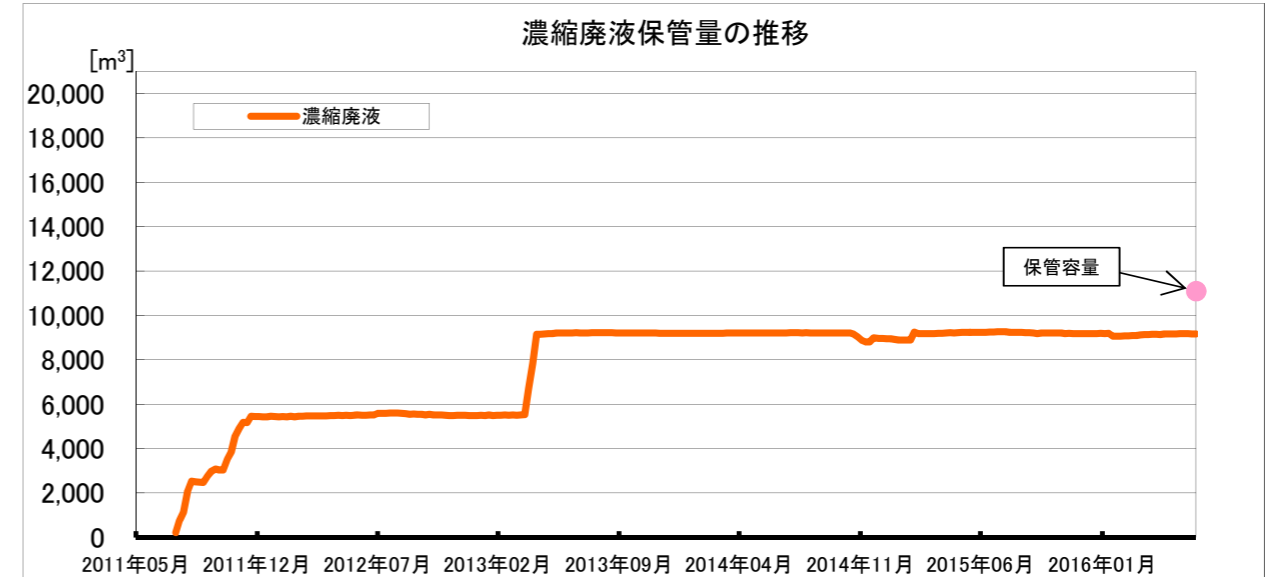
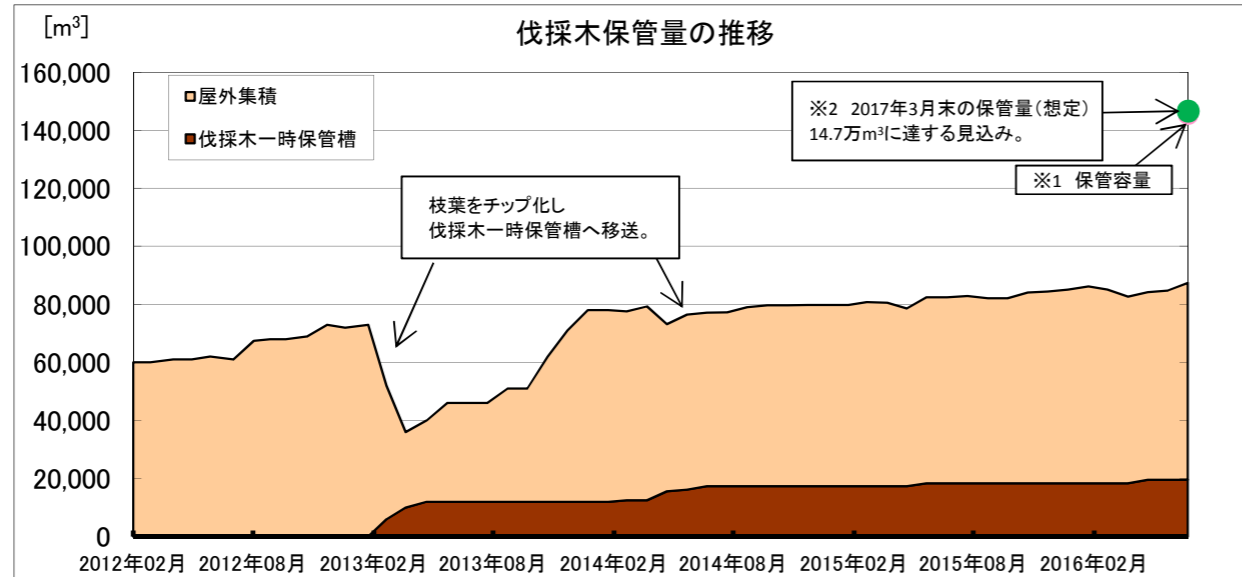
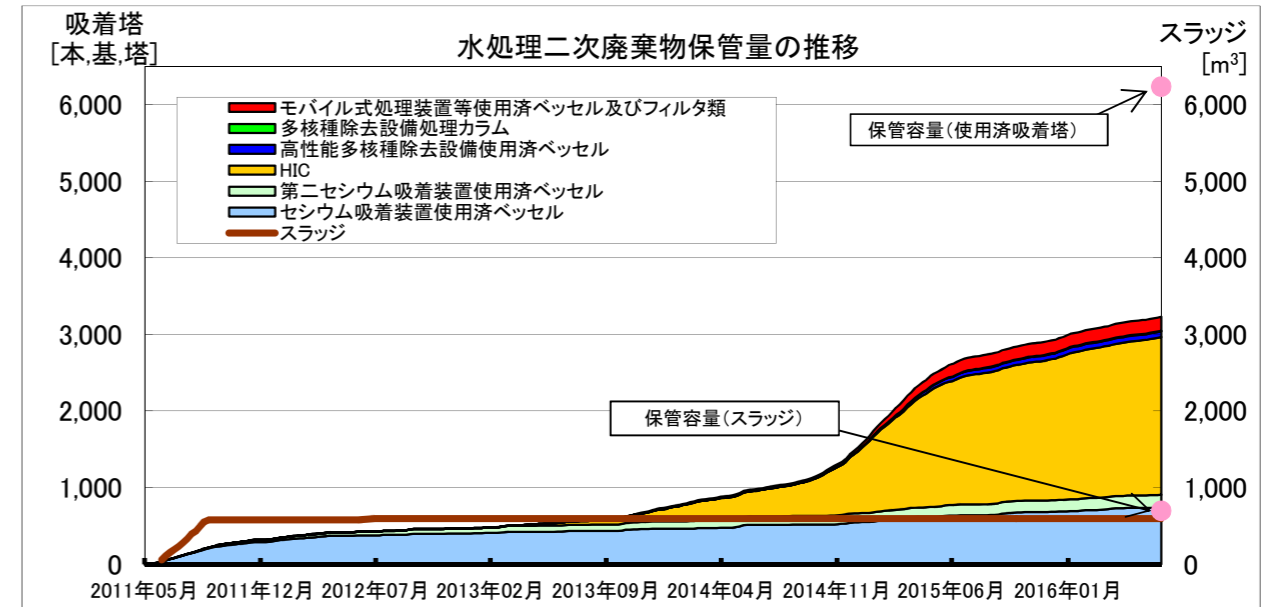
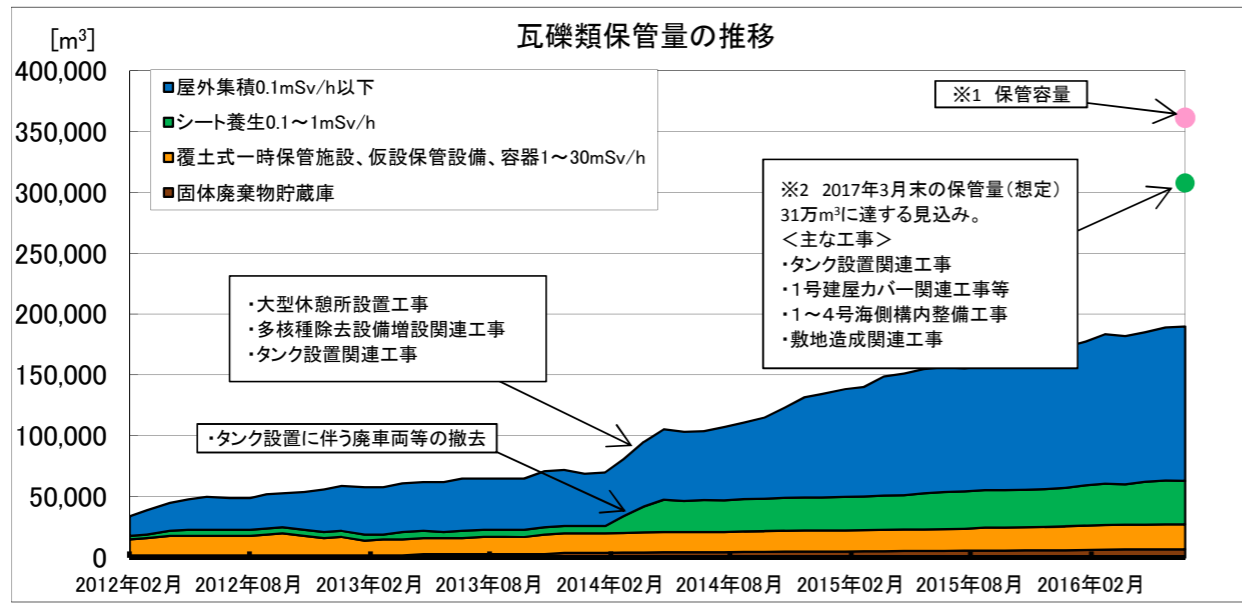


※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※3 主な変動理由: ①焼却対象物の受入 ②フェーシング工事 ③タンク設置関連工事 ④1~4号機建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ⑤破碎コンクリートの再利用 ⑥リスク低減対策による容器収納
 ⑦金属瓦礫を一時保管エリアPへ移動 ⑧金属瓦礫の受入 ⑨水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 ⑩敷地造成関連工事 ⑪焼却処理 ⑫使用済保護衣等の受入
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2016.7.21時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.6.23)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	738 本	+4 本	3232 / 6239 (52%)	<ul style="list-style-type: none"> 吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) 	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	168 本	+4 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,173 基			+11 基
			増設	888 基			+19 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	73 本			0 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	9 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		183 本	+2 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,178 m ³	-5 m ³	9178 / 11100 (83%)	<ul style="list-style-type: none"> タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) H2エリア(9,700m³)の撤去計画が認可。(2015年10月1日) これまで、8,900m³を供用廃止。 保管量に「タンク底部~水位計0%の水量(DS)」を含んでいない。(約100m³) 	

瓦礫類・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液・使用済保護衣等の保管量推移



※1 瓦礫類・伐採木の保管容量は、実施計画(2015年7月17日認可)の保管容量を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の2016年度末の保管量(想定)は、2015年7月の予測値。